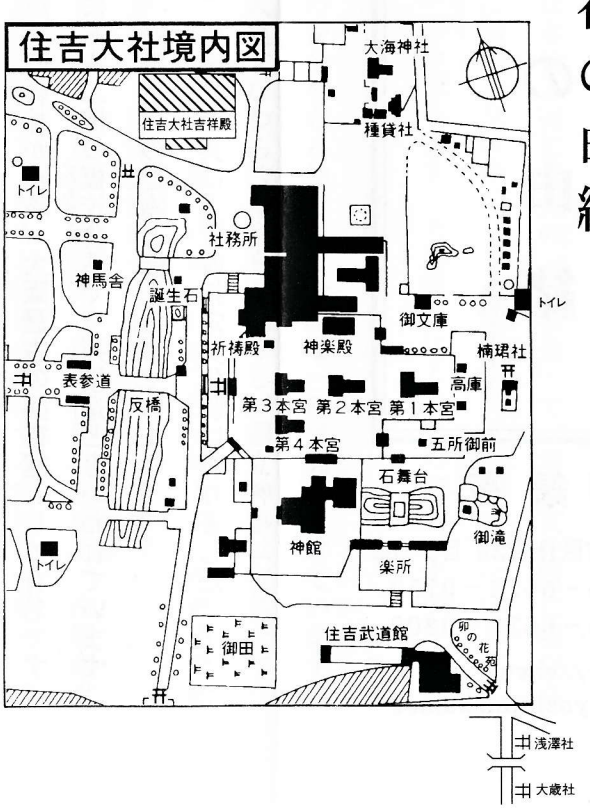
住吉大社の由緒

御祭神

第一本宮　底筒男命（そこつつのをのみこと）
第二本宮　中筒男命（なかつつのをのみこと）
第三本宮　表筒男命（うわつつのをのみこと）
　　住吉大神
第四本宮　息長足姫命（おきながたらしひめのみこと）（神功皇后（じんぐうこうごう））

底筒男命、中筒男命、表筒男命の三神を総称して住吉大神と申し上げ、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が橿原（あはぎはら）に祓除（みそぎはらい）せられたとき、海の中より生れた神様です。



御鎮座

神功皇后は、新羅御出兵に当って、住吉大神の御加護を得て大いに国威を輝かせられ、御凱旋の後、大神の御神託によって此の地に御鎮祭になりました。皇后摂政十一辛卯年（かのとうのとし）のことで、今から約千八百年前、のことでありました。皇后の御孫、仁徳天皇が浪速に遷都せられて墨江の津を開港せられ、後に大阪、堺の発展をもたらしましたのは、実に此の時に起因しています。

後、皇后をも併せお祀り申上げ、住吉四社（しゃ）大明神と崇められ、延喜の制では名神大社に列せられ、**摂津国一の宮**として聞え高く、昭和二十一年まで官幣大社でありまして、全国二千余に及ぶ住吉神社の総本宮です。

御神徳

住吉大神は、禊（みそぎはらい）祓の御神格をもって御出現になりましたので、禊祓の神であり、住吉祭は「おはらい」と呼ばれる程、神道でもっとも重要な「祓」のことを司る神です。また、住吉大神は、「吾が和魂（にぎみたま）をば宜しく大津の渟中倉（ぬなくら）の長峡（ながを）に居（ま）さしむべし、便（すなは）ち因（よ）りて往来（ゆきかよ）ふ船を看護（みそなは）さむ」と神功皇后にお告げになった由が日本書紀、住吉大社神代記に見え、海上安全の守護神であり、奈良時代、遣唐使の発遣には、必ず朝廷より当社に奉幣があり、その海上無事を祈りました。そのほか歌神として、古来歌道の上達に志す人が当社に参籠献詠し、

祭祀

あるいは現実に姿を現わされる現人神（あらひとがみ）としての信仰もあり、産業商業・文化・貿易の祖神と仰がれ住吉大神の広大な御神徳はあまねく世に知られています。

住吉大社の夏祭り（住吉祭）は、ただ単に「おはらい」とも呼ばれ、国中の大祓を行なうお祭りです。七月三十一日、御例祭につづき、午後五時より**夏越大祓神事**（大阪府指定無形文化財）が行なわれ、翌八月一日には堺宿院の頓宮（とんぐう）に御渡（おわたり）があり、荒和大祓（あらにごのおおはらい）が行なわれております。そのほか、**踏歌（とうか）神事**（一月四日）**白馬（あおうま）神事**（一月七日）**御結（みけち）鎮神事**（一月十三日）**松苗神事**（四月三日）**卯之葉神事**（五月上卯日）**御田植神事**（六月十四日・重要無形民俗文化財）**宝之市神事**（十月十七日）等の神事があります。

大社の祭祀は、千八百年来連綿と続いていますが、中でも伊勢の神宮と同じく、二十年一度の式年造替遷宮の制が、はやくも奈良時代より確実に実施せられていました。近世以降よりは、破損に従って修理する例となりましたが、遷宮の根本の制は今日にひきつがれ、来る平成二十三年は、御鎮座千八百年に当り、第四十九回式年遷宮を執り行います。

御崇敬

当社に対する御崇敬は頗（すこぶ）る厚く、天武天皇の御奉幣をはじめ、御歴代天皇皇族の行幸、御神宝の御奉納などあいつぎ、特に後村上天皇は、戦乱の世の前後九年間、当社に行在所をおかれました。また明治天皇は明治元年及十年の両度御親拝され、昭和天皇も大正六年御参拝になり、昭和四十五年には昭和天皇、皇后両陛下お揃いで御親拝されました。

初詣の参拝者は三ケ日で二五〇万人に及び、一年を通じても**家内安全・商売繁昌・初宮詣・七五三詣・交通安全・厄除**など諸願成就の人が絶えません。

御社殿

御社殿は、第一本宮より第三本宮まで縦に、第四本宮は第三本宮の横に並ぶという他に例をみぬ縦並びの配置で、各本宮とも御本殿は**「住吉造」**と称せられる神社建築史上最古の特殊の様式で、何れも**国宝**に指定されています。

「住吉造」というのは、丹塗・桧皮葺・直線型妻入式で切妻の力強い直線をなした御屋根に置千木と五本の四角堅魚木（かつおぎ）を備え周囲に廻廊なく、板玉垣をめぐらし、さらにその外に荒忌垣があり、正面で**「住吉鳥居」**と称せられる特有の四角鳥居に接続しています。

大海神社
船玉神社
若宮八幡宮
志賀神社
侍者社
楠珺社
種貸社
大歳神社
浅沢神社
市戎大国社
五所御前

摂末社

山幸海幸の神話で有名な海の神豊玉彦、豊玉姫を祀り、本社についで御神格の高い社です。御本殿は本社と同じ形式の「住吉造」で、**重要文化財**に指定され、社前の「玉の井」は海神より授かった潮満珠を沈めたと伝えられています。

天鳥船命・猿田彦命を祀ります。天鳥船命は天上との交通、すなわち大空の船の守神であり、猿田彦命は天孫降臨の際先導を果された神様で、船の御霊であると同時に航空の安全を守る神として全国唯一の信仰をうけています。

神功皇后の御子応神天皇すなわち八幡様をお祀りし、**湯立神事**は有名です。

大海神社境内にあり、伊弉諾尊の禊祓の時、住吉三柱大神と共に生れ出で給うた底津少童命・中津少童命・表津少童命をお祀りしております。

神功皇后の命をうけて住吉大社最初の神主津守氏の祖田裳見宿祢、市姫命を祀り、縁結の神として良縁を祈願し、おもと絵馬を奉納する参拝者が多い。

第一本宮の裏にある樹齢約千年の楠を御神木としてお稲荷様（宇迦魂命）を祀り、商売繁盛に格別の御神徳あり、俗に〝**初辰さん**〟と称えられて毎月初の辰の日には多数の参詣で賑わい、特に四十八回の月詣りは有名です。

苗見社とも称し、五穀の種が授かる信仰がもととなって、商売の資本を得たり、種貸人形を受けると子宝を授かる信仰があります。

大歳神を祀り、収穫の神であるところから集金、商売繁盛、家内安全、願望成就の御神徳があり、毎月初の辰日に祈願する人々で賑わいます。

市杵島姫神を祀り、福の神、婦人の作法、芸事の守護神として崇敬されています。昔は浅沢小野「かきつばた」として世に知られた名所でした。

事代主神・大国主神を祀り、商売繁盛の守護神で、市の守り神とされています。一月十日の市戎大国祭（**えべっさん**）は、賑々しいお祭が行われます。

名所旧跡

第一本宮と摂社若宮八幡宮との間にあり、杉樹が石の玉垣の内に立っていま

す。昔神功皇后が当社を御鎮祭のため社地をお定めになる時、この杉の木に鷺が三羽来て止りましたので、ここが大神の御思召のところとしてここに祀られたと伝え「**高天原**」とも呼ばれています。

石舞台

日本三大石舞台の一つで、舞楽を奏するところです。**南門・東と西の楽所**と共に慶長年間豊臣秀頼が奉納され、**重要文化財**に指定されています。

反橋（そり はし）

住吉の象徴として名高く**太鼓橋**とも呼ばれています。長さ二〇米、幅五・五米、高さ三・六米、現在の石の橋脚は慶長年間淀君が奉納したものが伝えられています。池の畔に川端康成「反橋」の文学碑が建っています。

誕生石

薩摩藩主島津氏の祖島津忠久誕生の処と伝えられ、島津家代々の信仰が厚く丹後局の伝説よりしてここに安産を祈るものが絶えません。

石灯籠

境内の石灯籠はすべて六百余基に達し、その形も頗る壮大なもの、優雅なものなど多く、頼山陽、池大雅、貫名海屋、篠崎小竹、五井蘭州、羽倉可亭など名家になる題字を刻んだものもあり、近世の住吉信仰を窺えます。

住吉御文庫

第一本宮の北に建つ二階建・土蔵造の御文庫で、享保八年（一七二三）に三都（大阪・京都・江戸）の書林が奉納、**大阪最古の図書館**として有名です。

高庫

第一本宮裏の森の中にある二棟の板校倉造（いたあぜくらづくり）で、井楼造ともいわれています。御神宝を納める庫にて、室町時代の建物と伝えられています。平成十一年（一九九九）招魂社と共に大阪府指定文化財に成りました。

住吉大社の由緒

御鎮座

大阪市住吉区住吉2丁目9－89
電　話 06－6672－0753
ＦＡＸ 06－6672－0200
URL http://www.sumiyoshitaisha.net